



# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【静岡県】

学校名【伊豆の国市立長岡北小学校】

1 実践テーマ	I・II・ <b>III</b> ・IV・ <b>V</b> (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生 22人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合的な学習の時間 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	春田純さんのお話を伺ったり、実技指導をしていただいたりすることで、福祉に関する学びを深める。
5 取組内容	<p>事前に「誰もが安心して暮らせる社会」とは、どのような社会なのかを話し合った。当日は、春田純さんから、病気のことや競技を始めるきっかけとなったこととお話いただき、その後、実技として短距離走の走り方を教えていただいた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
6 主な成果	<p>総合で追究している課題である「誰もが安心して暮らせる社会」について、児童は、はじめは「手伝う」「声をかける」などと考えていたが、春田さんとの出会いにより無理に手伝おうとせず、普通に接していけばよいのだと学んだ。</p> <p>また、春田さんから、義足で生活する上でいちばん傷つくのは、「かわいそう」という思いをもたれることだという話があった。児童は、障がいのある、ないに関わらず、同じ人間なのだから、誰であっても同じように接したいといった思いをもつことができた。</p> <p>(児童の感想)</p>

	<p>・春田さんとの授業で、障がいのある方は、常に手伝いが必要だと思っていました。けれども、実際聞いてみたらあまり困ることはないと言っていたので、「助けて」と言われたら勇気をもって助けたいと思います。障がいのある方だからといって何もできないわけではないし、障がいがあるからと言って違う人間ではなく、同じ人間だということを学びました。</p> <p>・私は春田純さんの話を聞いて、しょうがいのある方だからって「かわいそう…」と言うのはやさしい言葉に見えるけれど、相手がきずつくかもしれないので、あまりよくないと思いました。しょうがいによって手助けは変わります。例えば、耳だとすると、その人は手話で話さなければいけません。そうすると声で助けをよぶことができません。そんな時、自分がこまっていると思ったら声をかけるのが大切です。しょうがいのある方は工夫すればなんでもできます。なので、しょうがいがあるからって暗いわけはありません。しょうがいがある方も、ない方もみんな同じ人間です。みんな助け合って生きていくのです。</p> <p>・これまでに、車いす体験や目が見えない人の体験などをしてきました。春田さんの話を聞く前は、「かわいそうだな」「つらそうだな」と思っていました。でも春田さんの話を聞いたら、障がいのある方もふつうの人も同じ人だと思いました。もし障害のある方がこまっていたら、できるだけ手助けをしようと僕は思いました。</p> <p>でも、障がいのある方は、ぼくたちよりすごいところが多くて、パラリンピックのえいそうを見て、おどろきました。僕も春田さんのように、速く走れるようにしたいです。</p> <p>・はじめは、常に助ける必要があると思っていましたが、助けを求められたら勇気を出して人を助けられるようにしたいです。春田純さんの授業で、一番学んだことは、やさしい気持ちをもって人にせつすることが、大切ということを知りました。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	春田さんに実技指導をしていただいたこと。
8主な課題等	実技指導をしていただいた方が、児童の興味は高まるので実技指導があればよいが、大規模校は難しいと思われる。
9来年度以降の実施予定	本事業を継続するために、同じように福祉について学んでいる市内の学校とリモートで学習内容を伝え合う。それによって、お互いに学びを深められると考えている。